

研究テーマ	【 IV 人や作品との対話やかかわりを大切にした造形教育を考える 】 作品の見方や感じ方の広がる鑑賞学習の工夫 ～第1学年「なりたいものになる仮面」の実践を通して～
-------	------------------------------------------------------------------------------------------

茨城県日立市立泉丘中学校 教諭 山形 幸穂

1 研究テーマについて

自分にはない新しい見方や感じ方に気付くためには、生徒自身の考えや感じたことを自覚することが基本である。本題材では、どんな自分になってみたいか、を考えることがスタートとなる。「なりたい自分」の姿として、「声をあげて泣いている自分」「おもいきり喜びを表現したい自分」など生徒が抱える内面の自分を問うことが豊かな表現に繋がっていくと考える。そのため「今の自分」について考えさせるために自分をウェビングマップに表す学習活動を位置づけた。それは、生徒自身を鑑賞対象の一つとして考えさせ「今の自分」を整理させたいというねらいからである。「今の自分」について整理をしていくことで、「なりたい自分」の姿を意識させていきたいと考える。本時の授業では「なりたい自分」のアイデアをうかばせる一つの手立てとして、「表情」に注目させた鑑賞活動を位置づける。ここでは絵画表現の顔の色や表情を鑑賞し、喜怒哀楽に分類させる鑑賞活動を行う。その際、喜怒哀楽に分類させた表を「表情マップ」と称し、それぞれの生徒がどのような思いで鑑賞したかをマップの位置で把握できるようにした。はじめに、個人個人での「表情マップ」を制作し、自分なりの自由な感覚で鑑賞をする。その後、個人で制作した「表情マップ」をグループで鑑賞する活動を行うことで、自分では気付かなかった表現や違った見方を発見させたい。個人での鑑賞とグループでの鑑賞を通し、アイデアに結び付けられるような「見方や感じ方を広げる鑑賞」の手立てにしたいと考える。

鑑賞することは決して日常とかけ離れたことではない。個人の感覚と他者との感覚の違いを発見する面白さは日々生活する中にもある。本時の鑑賞活動を通し、鑑賞が自分の世界を広げ、発想や感動を生むことに気付かせたいと思う。

2 実践例

(1) 題材名 「なりたいものになれる仮面」をつくろう

(2) 題材の目標

○なりたい自分と色や形を結びつけた仮面づくりをきっかけとして、自分の思いや願い、よさや美しさへの憧れから主題を生み出し、材料や色彩の特性を生かしながら仮面づくりをするとともに、主題と表現のよさや造形的な美しさを感じ取り、作品に込められた思いや考えを説明し合うなど、対象の見方や感じ方を広げることができる。

(3) 題材について

本題材は、生徒が「なりたい自分」に思いを巡らせ、そのイメージを目と鼻を覆う仮面という形で表現する活動である。本題材のねらいは、主に中学校学習指導要領美術 第1学年「A表現」の「(1) ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。」、及び「B鑑賞」の「(1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。」に係る力の育成である。これらの能力の育成にあたり、本題材では、主題を生み出す際、「顔・表情」といった身近なモチーフを基に、自由に発想表現していくようにする。仮面という身に付けるものを表現することは、日常の自分から離れ変身するといった、自分自身のイメージづくりを楽しむことのできる題材であると考えられる。

また本題材では、絵画作品を取り上げ、普段目にしている人の表情を鑑賞する活動を位置づける。顔など日常の中で見慣れたものは、その特徴が概念として個々の中に固定しがちであるが、「表情」に注目して鑑賞することで、感情とパーツの形を結びつけたり、表情づくりの面白さを発見させたりしていくようにする。自分の感覚で素直にみる喜びを味わうことで表現したいという意欲を喚起させたい。また、デザイン表現の最も基本となる「発想・構想」の学習につなげ、ものの見方・感じ方を深め、主題や発想を創

出す能力の育成を図りたい。

【目指す生徒の姿と生徒の実態】

本学級の生徒は美術への関心が高く授業への取り組みも意欲的である。しかしアンケートによる実態調査から、「何かを作る授業（表現活動）」を好きな生徒が、「作品をみる授業（鑑賞活動）」も好きであるとは限らないことが分かった。

美術学習に関する事前調査		[男子19人女子16人全32人] 6月21日実施	
1：何かを作る授業（表現）は好き(10人)やや好き(13人)あまり好きではない(7人)苦手(2人)	2：作品をみる授業（鑑賞）は好き(11人)やや好き(11人)あまり好きではない(9人)苦手(1人)	3：鑑賞で話し合うことは好き(8人)やや好き(14人)あまり好きではない(9人)苦手(1人)	4：アイデアはすぐにうかぶかうかぶ(4人)ややうかぶ(10人)あまりうかばない(16人)うかばない(12人)

また、作品を制作する上で重要なアイデアを出すことについては「あまりうかばない」・「うかばない」と答えた生徒が半数以上を占め、発想や構想を練ることが苦手であるということが分かる。これらのことを踏まえ、作品の構想を練る前の段階で、制作のヒントとなる鑑賞活動を行い、鑑賞と表現活動における連携を図ることで、生徒が鑑賞での話し合いや気付きの中で、発想することの面白さにも気付いてほしいと考える。また、鑑賞で話し合い活動をするに関しては「好き」・「やや好き」と答えた生徒が多く、言葉で伝えあうことに積極的であることが分かる。本時の授業では自分の感覚を基に伝え合うことを工夫したいと考える。自分の感覚を伝え合う言語活動を取り入れ、自分の発言や表現に自信のない生徒にとっても、発言することや伝え合うことの大切さ知る機会をつくりたいと願っている。

(4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
テーマを基に、心の世界を表現することに関心を持ち、主体的にすすんで表現しようとする。なりたい自分と色や形を結びつけた仮面づくりを楽しむとする。	自分の思いや願い、よさや美しさへの憧れから主題を生み出し、顔の特徴や表情にあったつくり方を構成することができる。	材料や色彩の特性を生かし、強調化、配色、モデリングなど自分の思いや願いに沿った仮面づくりを工夫することができる。	顔を基にした主題と表現のよさや造形的な美しさを感じ取り、作品に込められた思いや考えを説明し合うなど、対象の見方や感じ方を広げることができる。

(5) 指導と評価の計画

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	発	技	鑑	
1	1	ウェビングマップをつくり、考えを広げ整理する。	◎				[鑑賞] ・参考資料を通し、仮面の面白さを感じることができる。 [ワークシート] ・どんな自分になってみたいかをウェビングマップをつくり整理することができる。
2	2 (本時)	グループで作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。	○			◎	[鑑賞・発表] ・表現の違いや感情を話し合うことで対象の見方や感じ方を広げることができる。 ・作品の意図や表現の違いについて言葉を用いて表現することができる。
3	3	作品の構想を練る。作品の中間鑑賞会をする。		◎	○		[ワークシート] ・構想や装飾を考え、表現の構想を練ることができる。 [鑑賞・ワークシート] ・言葉で伝え合うことを通して、作品の見方や感じ方を広げることができる。
4	3	作品を制作する。			◎	○	[作品制作] ・表現したい思いに応じて材料や色彩の生かし方などを考え創意工夫しながら表現することができる。
5	1	制作した作品の鑑賞をする。	○			◎	[ワークシート] ・制作した作品を振り返り、感じ取ったことについて言語表現を用いて伝えることができる。 [鑑賞] ・作品を通して、表現の違いや美しさを感じ取ることができる。

(6) 本時の展開

本時の学習（2時間目）

(1) 本時の目標

- ・表現の違いや感情を話し合うことで対象の見方や感じ方を広げることができる。

(2) 準備・資料

- ・教科書，美術資料，制作カード，参考作品，鑑賞作品，ワークシート，付箋，糊

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点，学習評価（◎：評価，言：言語活動）
<p>1 本時の課題について話し合う</p> <p>『なりたいたいものになる仮面をつくろう』 表情や感情を読み解け！ 喜怒哀楽「表情マップ」をつくる</p> <p>2 掲示された参考作品を基に，鑑賞の方法や手順を知り，【表情マップ】（右図：図1）の作り方について話し合う。 [参考作品例]</p> <div data-bbox="172 757 422 1093"> <p>[エゴン・シーレ自画像]</p> </div> <div data-bbox="443 840 742 1093"> <p>[くちの開いた空き缶]</p> </div> <p>[鑑賞方法・表情マップの作り方]</p> <p>(1) 鑑賞作品について自分の感覚をもって鑑賞する。</p> <p>(2) 鑑賞作品が「喜怒哀楽」のどの位置に当てはめられるか考えの鑑賞をする。</p> <p>(3) 鑑賞作品の「喜怒哀楽」の位置を決め，ワークシート上の【表情マップ】に貼る。</p> <p>(4) 鑑賞作品を【表情マップ】その位置に当てはめた理由を付箋に書き出す。</p> <p>3 鑑賞作品の鑑賞をし，【表情マップ】を制作する。</p> <div data-bbox="183 1518 742 1926"> <p>作品と付箋は近いところに貼っておく。</p> <p>背景にある「喜怒哀楽」の文字・矢印が大きくなるように，各「喜怒哀楽」の四角の奥になればなるほど強い「喜怒哀楽」の意味になる。</p> </div>	<p>指導上の留意点，学習評価（◎：評価，言：言語活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の鑑賞活動（ウェビングマップ）を振り返り，自分のイメージを広げることの大切さを再確認する。 ・参考作品を掲示しながら【表情マップ】（図1）の作り方を確認することで，鑑賞の方法や手順を理解させ，活動への関心を高めていく。 <p>【図1：表情マップ】</p> <div data-bbox="837 824 1364 1153"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を喜怒哀楽に当てはめるとどうなるかを考えるようにする。 ・参考作品から感じる印象や色のイメージから喜怒哀楽に結び付けるよう考えていく。 ・付箋には，参考作品を喜怒哀楽に結びつけた理由を書くよう伝える。 ・参考作品の喜怒哀楽の分類に迷った生徒がいる場合，なぜ分類に迷うのか，迷う理由を付箋に書くようにしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な見方を伝え合うことができるよう，どう感じたのかを付箋に言葉で明確に表現できるようにする。 ・作品の見方について迷っている生徒には，その作品について，作品をオノマトペ（擬態語・擬音語）で表現するとどうなるかを考えさせるなど，活発に鑑賞活動ができるよう助言する。 ・作品とその作品の理由について書いた付箋はなるべく近くに貼るようすることで比較ができるようにする。 ・ワークシートの背景にある「喜怒哀楽」の文字や矢印がだんだんと大きくなるように，各「喜怒哀楽」の四角の奥になればなるほど強い「喜怒哀楽」の感情になる意味があることを理解させたい。 ・自分で感じた「喜怒哀楽」の強さによって作品を貼る位置をきめるようにする。 ・喜怒哀楽の分類に迷った生徒がいる場合，なぜ分類に



目がつり上がっている
ので怒っているように見える。

理由を書き込む



4 ワークシートに3の鑑賞での感想を書く。

5 鑑賞の形態をグループの形に変え、生徒が個人個人でまとめた【表情マップ】をグループ内で互いに鑑賞し合う。

(1) 3の鑑賞活動で制作した【表情マップ】を互いに見せ合う。

(2) 鑑賞によって感じた鑑賞時の視点の違いやその面白さに気付く。

(3) 自分と違った作品の見方や感じ方を発見し、ワークシートに書き出す。

6 本時の鑑賞活動を通して、作品の見方や感じ方がどのように変わったのか感想を書く。

・本時の活動を振り返り、ワークシートに感想を書き出す。

・鑑賞活動の中で気付いたことをまとめ、自分の作品に取り入れてみたい表現を書き出す。

7 本時の学習のまとめをする。

・制作カードに記入する。
・自己評価をする。



迷うのか、迷う理由を付箋に書くことで、交流を促していく。

言自分の感覚で作品の喜怒哀楽・表情を感じ、その思いを付箋に書く。

○作品の個性を感じ取り、感じ取ったことを言葉で表現し、伝えることができる。(観察, ワークシート)

・3の鑑賞時に「喜怒哀楽」の分類に、特に迷った作品をあげ、その理由と感想をワークシートに書かせる。

・作品について感じ取ったことや感想など、近くの生徒同士での話し合いをすることにより、同じ考えや自分と異なる見方や感じ方があることに気付かせる。

・鑑賞作品が同じものでも個人個人で見方や感じ方が違うことに気付かせる。

・言葉で伝え合う活動を通して自分にはない見方や感じ方に気付く、感覚を広げることができるようにする。

言生徒同士で積極的に意見を交換するなかで、自分とは異なる見方や感じ方に疑問や不思議に思ったことを積極的に話し合う。

◎表現の違いや感情を話し合うことで対象の見方や感じ方を広げることができる。(鑑賞)

・本時の鑑賞活動を通して、作品の見方や感じ方がどのように変わったのか感想を書かせる。

・4の活動であげた、「喜怒哀楽」の分類に迷った作品について、グループでの鑑賞活動後、どのように見方が変わったのかワークシートに書かせる。

◎作品の意図や表現の違いについて言葉を用いて表現することができる。(鑑賞, ワークシート)

・本時の課題について感想や自己評価をさせる。

・本時の鑑賞活動を行ったことで、作品への見方や感じ方の広がりがあったか確認し、今後の鑑賞の指導に生かすようにする。

3 成果と課題

授業後のアンケートで、「仮面のアイデアは浮かびそうですか」という問いに対し、「浮かぶ」と答えた生徒が32名中12人、「やや浮かぶ」と答えた生徒が15名と、アイデアが浮かんだ生徒が半数以上を占め、「あまり浮かばない」と答えた生徒が5名、「浮かばない」と答えた生徒は0名であった。また、「鑑賞で話し合うことは好きですか」という問いに対し、「好き」と答えた生徒が32名中9名、「やや好き」と答えた生徒が20名と鑑賞での話し合い活動に肯定的な生徒が全体の殆どを占め、「あまり好きではない」と答えた生徒が2名、「苦手」と答えた生徒が1名であった。この結果から、今回の授業がアイデアを出すことに有効的だったと言える。また、鑑賞を通しての言語活動に対する意識も、事前アンケートと比べ肯定的に捉えている生徒が増え、生徒の鑑賞力を喚起するのに有効であったと思われる。

【成果】

○鑑賞を通して「表情マップ」をつくり、一目でそれぞれの生徒がどのような思いで鑑賞することができたのかをワークシートに整理させることができた。また、種類の異なった鑑賞作品を多数用意することで、「次はどんな絵がくるのだろう」「先生、もっと絵をください」といった声が行き交い、生徒は意欲的に鑑賞活動に取り組むことができていた。鑑賞作品を手にした子ども達は、自分にとってその作品がどんな表情に見えるのかを、じっくりと考えながら「表情マップ」の位置を決め、付箋にそれぞれの理由を書き込むことができていた。

○個々の自由な感覚で制作した「表情マップ」を、グループで鑑賞することで、一人では気がつかなかった表現や、自分とは違った見方を発見することができていた。ワークシートには「自分は○○だとしか見えなかったが、友達の意見を聞いて□□のようにも見えると納得した。」という言葉が見られた。

【課題】

○「表情マップ」をつくる鑑賞の途中で、なかなか「表情」に注目できなかった生徒がいたことである。その理由として、鑑賞のやり方を十分に理解できていなかったことがあげられる。生徒と一緒に鑑賞する時間を設け、より具体的に鑑賞のやり方を理解させ、授業に引き込む工夫をしていきたい。また、なかなか「表情」に注目できなかった生徒も、生徒同士の相互鑑賞を行なう際に、自分にはない視点を発見できる機会を多く作りたいと感じた。鑑賞の際、生徒自身に話し合いの必要を感じさせるような投げかけを行なっていくことも必要であると感じた。また、教師が肯定的に生徒の言葉をつなぎ、話しを広めたり、進めたり、深めたりする、ファシリテーターとなって、より鑑賞を深めていくことが大切だと感じた。

○本題材では仮面を制作する上で、顔の部位の特徴によって表情にどんな変化ができるのか、前もって想像したり、自分の顔で確認したりすることができれば良かったと感じている。「表情マップ」を用いての鑑賞では、その後、造形表現として行なわれる、眉・目・鼻という顔の半分の造形表現を行うことに繋がりたいと思い鑑賞を行なった。その際、「表情マップ」では当てはめられない「怒っているが楽しそうである」という表情や、「喜んでいるが悲しんでいる」といった複雑な表情について、実際にどんな顔の造形が当てはまるだろうかと考えることができれば、鑑賞がより深まったのではないかと感じたからである。また、鑑賞活動の中で「口元」の表現について注目している生徒が多かったことから、仮面として顔全体を制作する取り組みができれば良かったと感じた。生徒に主体的に鑑賞を促し、興味関心を引き出す教材を選ぶことの大切さについて改めて考えさせられた。